「くまもと・まち魅力向上協議会」
くまもと・まち魅力向上プロジェクトの一環で、『まちなか福祉月間「まちなか＋one」』、「楽しもう＋one」イベントを開催

くまもと･まち魅力向上プロジェクトにおける『まちなか福祉月間「まちなか＋ｏｎｅ」』の第３弾「楽しもう＋ｏｎｅ」で、鹿児島の知的障がい者施設「しょうぶ学園」の音楽パフォーマンス集団「otto&orabu」による生ライブや、熊本市内の障がい者施設で作られた野菜や雑貨などを一堂に集めた「おとなりマルシェα」などが行われました。

2018 年 6 月 23 日（熊本市中央区・新市街アーケード）

食産業復興支援　地域の活性化支援

キリングループが、熊本県、日本財団との包括支援協定に基づき取り組んでいる「『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援」の一環として、今年 2 月に熊本市中心市街地の活性化に取り組む「くまもと・まち魅力向上協議会」に対し、900 万円の支援金を助成した。
同協議会は、上通・下通・サンロード新市街といった熊本市中心市街地の各商店街の若手メンバーが中心となり、「“まち”に代々続く熊本人らしさを世代問わず分かち合い、多様な人々が分け隔てなく交流できる場としてのまちの魅力を創造し、発信していく」をビジョンに掲げ、取り組んでいる。協議会では 6 月を「まちなか福祉月間」と位置づけ、「障がいを持つ人もそうでない人も安心して訪れることのできるやさしいまち」について考えてもらおうと､「考えよう」「感じよう」「楽しもう」のテーマで、3 回にわたってイベントを実施した。
最終回となった 6 月 23 日のテーマは「楽しもう＋one」。会場となったサンロード新市街のメインステージでは、鹿児島の知的障がい者施設「しょうぶ学園」の音楽パフォーマンス集団「otto&orabu」による生ライブが披露されたほか､「オハイエくまもと」とコラボしたくまモン体操などで会場を盛り上げた。ほかにも、熊本市内の障がい者施設で作られた野菜や雑貨などを一堂に集めた「おとなりマルシェα」、熊本大学教育学部特別支援学校の作品展、熊本在住の切り絵作家・渡邊義紘さんの作品展も同時開催され、多くの家族連れやカップルでにぎわいを見せた。

コメント①

NPO 法人ゆうステーション熊本　江島 猛 様

当事業所では、障がいを持つ方々が就労を通じて働く喜びや生きがいを感じてもらおうと、本物の花をアレンジしてアクセサリーにしたり、多肉植物などを販売しています。普段は委託先のお店で販売していますが、今日は新市街アーケード内でのマルシェということで、通りすがりの方々にも足を止めていただけて、反応もいいようです。事業所同志の交流の機会にもなるので、参加できて良かったです。

コメント②

ハピネスワーク　志田 直樹 様

就労継続支援 B 型事業所の「ハピネスワーク」では、皆が幸せになるという考えの下、障がい者や高齢者、その他支援を必要とする人々が共に生き、共に働ける社会になるよう取り組んでいます。今日は、災害時に活躍するブレスレットなど、手づくりの小物を中心に販売しています。週末ということで家族連れの方も多く、マルシェの反応を楽しみながら参加しています。

コメント③

NPO 法人熊本福祉会 翔　奥野 靖夫 様

当事業所では、障がいのある方を雇用し、農業を通じて一般就労を目指しています。現在 13 名の利用者がおられ、無農薬のジャガイモやゴーヤ、カボチャなどを栽培しています。今日のマルシェは、障がい者自らが店頭に立ち、販売することのできる貴重な機会です。自分たちで育てた野菜を販売する喜びを感じ、それが働くやりがいにつながればと期待しています。

コメント④

知的障がい者施設「しょうぶ学園」（鹿児島）　音楽パフォーマンス集団「otto＆orabu」

「otto＆orabu」は、知的障がい者施設「しょうぶ園」から生まれた音楽パフォーマンス集団です。人々がさまざまな個性を持った人が集まっておもしろくなるのと同じで、私たちも音楽のセオリーやバランスなどを無視して、音での表現そのものを楽しみたいと思っています。年 10 回ほど国内外でライブ活動を行っていますが、人通りの多いアーケード内でやるのは初めての経験でした。人間のパワーを感じてもらえるような素晴らしいパフォーマンスができたのではないか、と感じました。

コメント⑤

くまもと・まち魅力向上協議会　とこづくりプロジェクト推進リーダー　安田 征司 様

6 月を「まちなか福祉月間」と位置づけて、「まちなか＋one」の取り組みを実施してきました。徐々に認知度も上がり、私たちが目指した「障がいを持つ人もそうでない人も安心して訪れることのできるやさしいまちづくり」のきっかけになったと感じます。しょうぶ学園さんのライブの時には多くの方が足を止めて楽しんでいらっしゃいましたが、このイベントが終わってもまた足を運んでもらえるような商店街にしていきたいですね。障がいのある人への理解を深め、今後 10 年、20 年先の熊本の街が盛り上がっていけるように継続して取り組んでいきたいと思います。

コメント⑥

くまもと・まち魅力向上協議会　矢上 智世子 様

今回の「楽しもう＋one」のディレクターを務めました。1 回目「考えよう」、2 回目「感じよう」、そして 3 回目の「楽しもう」とのテーマで実施しましたが、プロジェクトの締めということでプレッシャーもありました。しかし、ライブに参加された皆さんが、口々に「楽しかった！」と言ってくださり、来場者も手拍子されたり、一緒に踊ったりと、会場が一体となって盛り上がっている様子を感じられてホッとしました。今回のプロジェクトを踏まえ、熊本の中心市街地が誰にとっても居心地のいい場所になるように、今後も取り組んでいきたいと思います。

コメント⑦

熊本市障がい保健福祉課　小山 恭正 様

今日のイベントでは、「おとなりマルシェ」と題して、熊本市内の障がい者施設の方々がブースを出店。自分たちで栽培したり、手づくりした野菜やパン、雑貨などを販売されました。毎月１回、上通入口のびぷれす広場でも同様のイベントを行っていますが、そうした販売の機会は少ないのが現状です。こうしたイベントを通して、事業所の活動に少しでも理解を深めていただき、販促につながればうれしいですね。